

## 第1章 函館市の概況

函館市は、温暖な気候や豊かな自然に恵まれた自然条件のもと、我が国最初の国際貿易港として開港して以来、外国の文化を積極的に取り入れることにより、国際性豊かな歴史と文化を育み、異国情緒あふれるまちへと成長してきました。

また、平成28年（2016年）3月の北海道新幹線開業により、陸・海・空の交通の要衝としての拠点性がさらに高まるとともに、豊富な水産資源に恵まれた、北海道でも有数の水産都市となっています。

### 1 位置・地勢・気象

本市は北海道渡島半島の南東部にあり、東経140度44分、北緯41度46分（市役所の位置を中心とする）に位置しており、市街地は、火山活動や地殻変動により出現し、海流による漂砂で亀田半島とつながった陸繋島である函館山から扇形に広がり、七重浜方面・亀田平野方面・横津岳山麓方面・湯の川方面に展開しており、その背後には袴腰岳等の山々が連なる、豊かな自然環境に恵まれた地勢となっています。

また、東部の戸井地区から南茅部地区にかけては、海岸線沿いに家屋が連なり、その背後は急峻な地形を形づくっています。

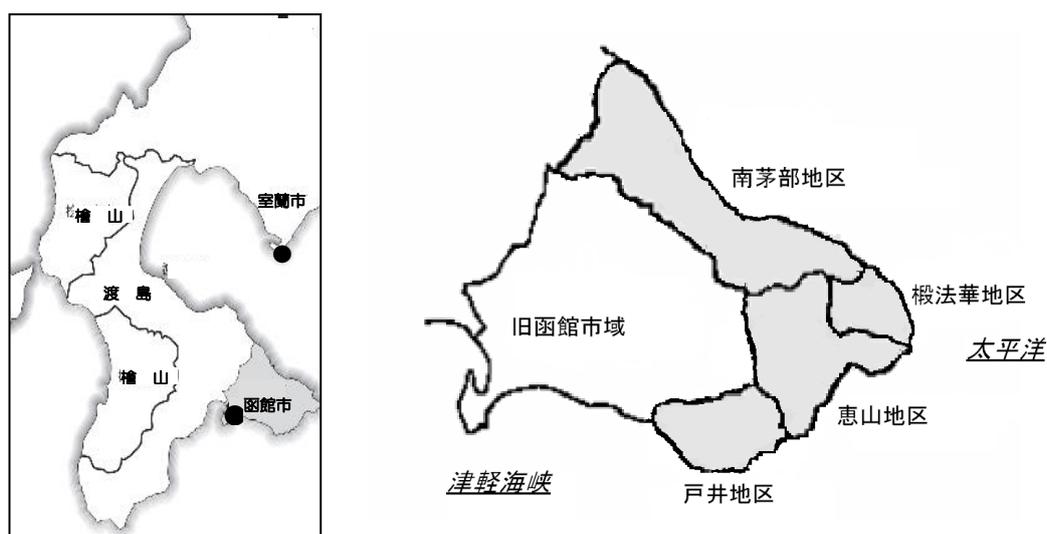
本市では、合併等による市域の変遷の結果、現在の範囲は東西41.1km、南北32.8kmの広がりの中にあり、面積は677.87km<sup>2</sup>となっています。

表1-1-1 位置と広さ

面積	位置（市役所を中心とする）		広さ	
	経度（東経）	緯度（北緯）	東西	南北
677.87km <sup>2</sup>	140度44分	41度46分	41.1km	32.8km

※面積，広さは平成30年10月1日現在  
出典：函館市例規集

図1-1-1 函館市の位置



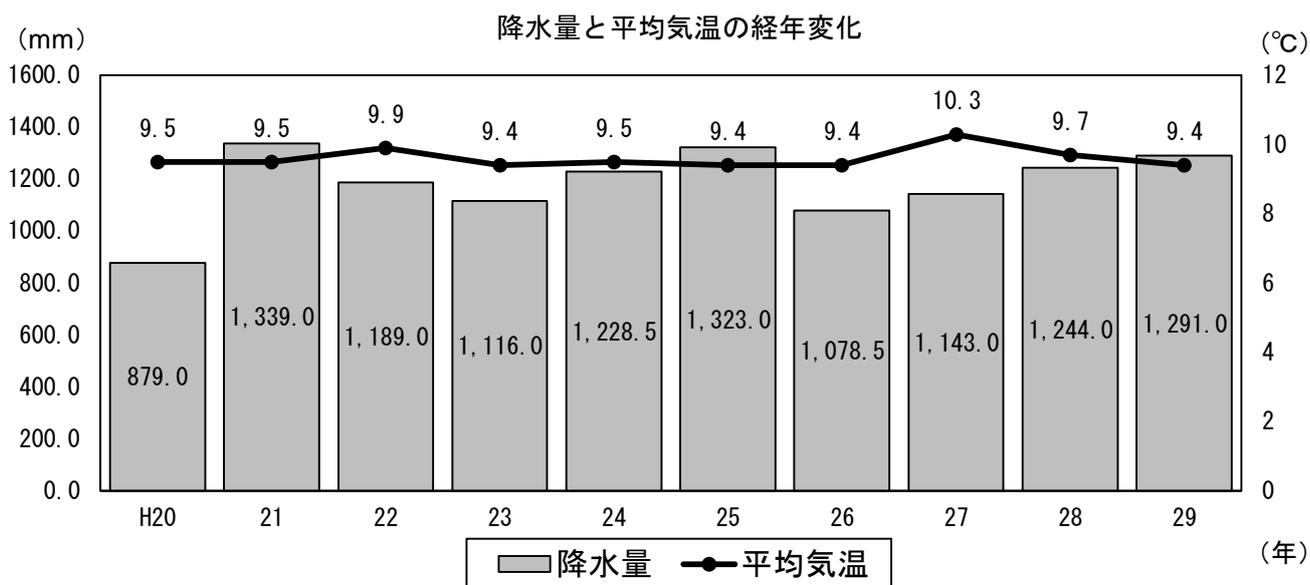
気象は、対馬海流（暖流）や千島海流（寒流）の影響を受ける海洋性気候であり、北海道の中では、比較的降雪量が少なく、温暖な地域となっています。平成20年（2008年）から平成29年（2017年）までの平均気温はほぼ横ばいですが、近年は常に最高気温が30.0℃を越えています。

表1-1-2 函館市の気象概況

年	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	最深積雪(cm)
平成20年	9.5	28.9	-12.4	879.0	41
21年	9.5	29.5	-11.5	1,339.0	35
22年	9.9	33.0	-13.8	1,189.0	47
23年	9.4	32.5	-12.1	1,116.0	50
24年	9.5	32.6	-14.7	1,228.5	91
25年	9.4	30.7	-13.6	1,323.0	55
26年	9.4	31.8	-14.4	1,078.5	57
27年	10.3	30.5	-9.0	1,143.0	33
28年	9.7	32.7	-11.0	1,244.0	58
29年	9.4	32.4	-12.0	1,291.0	27

※最深積雪は寒候年（前年の秋から該当年の春まで）

出典：気象庁資料



## 2 人口

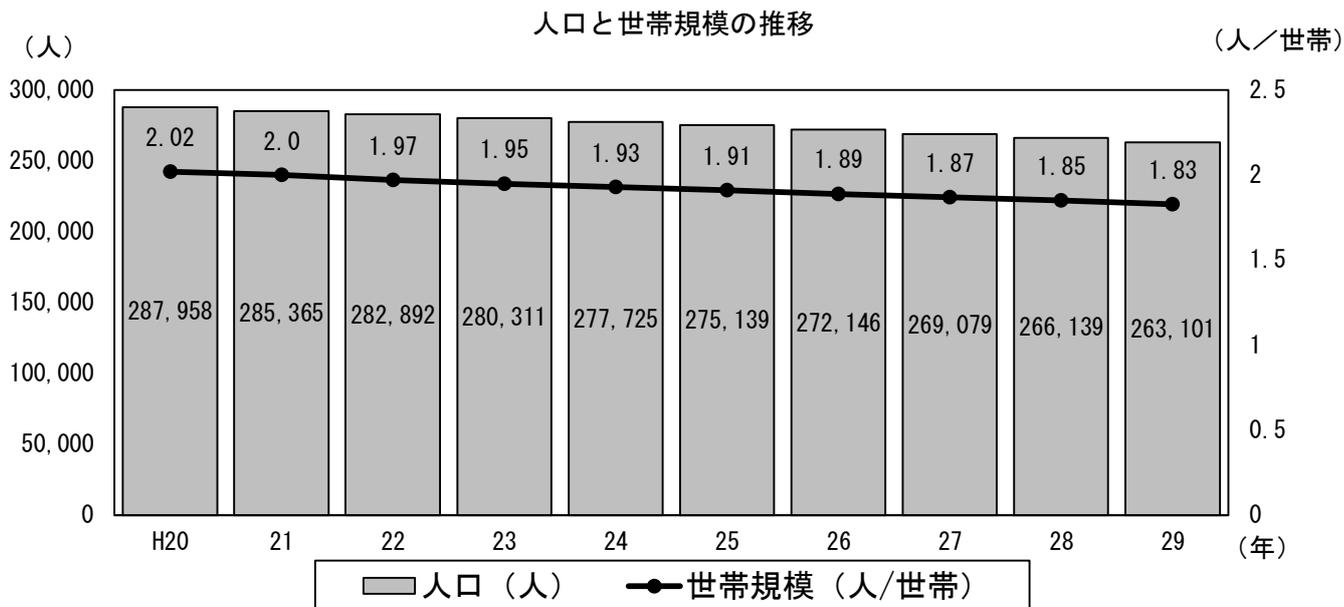
### (1) 人口の推移

本市における人口は減少傾向にあり、平成29年（2017年）の総人口は263,101人となっています。世帯数はほぼ横ばいで推移していますが、1世帯あたりの人員は1.83人で、単独世帯の増加等により減少傾向にあります。

表1-2-1 人口の推移

区分	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
人口(人)	287,958	285,365	282,892	280,311	277,725	275,139	272,146	269,079	266,139	263,101
世帯数(世帯)	142,385	142,923	143,325	143,805	143,899	144,101	143,925	143,810	143,811	143,423
世帯規模(人/世帯)	2.02	2.0	1.97	1.95	1.93	1.91	1.89	1.87	1.85	1.83

出典：住民基本台帳人口（9月末）



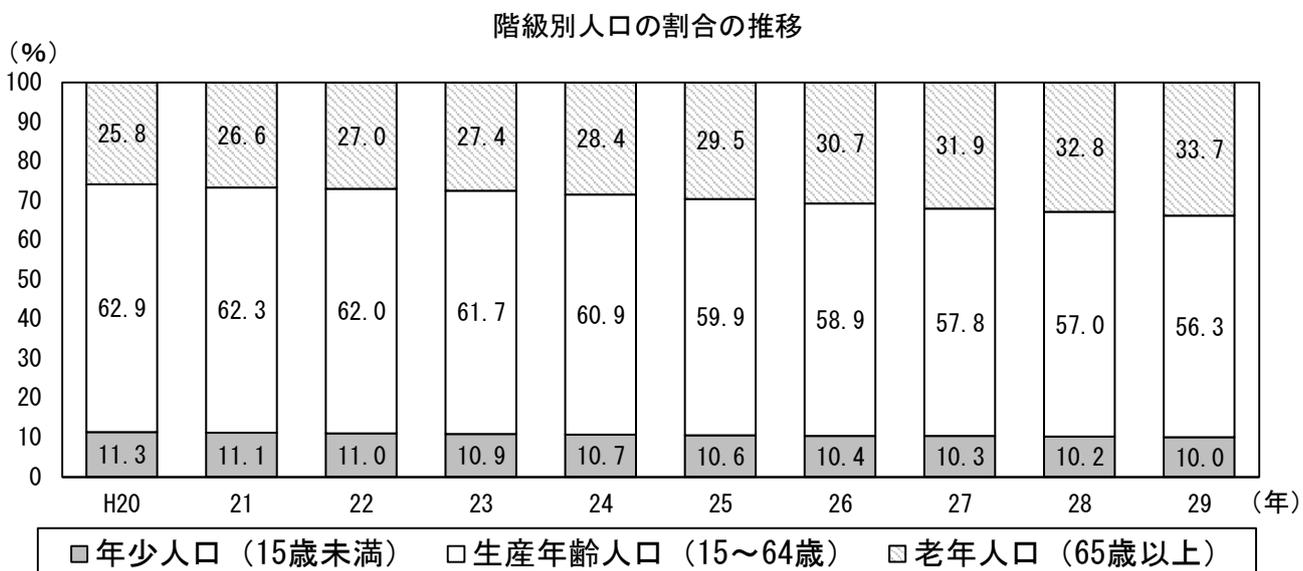
## (2) 階級別人口の推移

本市の平成29年（2017年）の階級別の人口は年少人口が26,278人（10.0%）、生産年齢人口が148,188人（56.3%）、老年人口が88,635人（33.7%）となっています。平成20年（2008年）から平成29年（2017年）までの階級別人口の推移を見ると、年少人口や生産年齢人口は減少していますが、老年人口は増加しています。

表1-2-2 階級別人口の推移

区分	単位	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
年少人口	人	32,330	31,679	31,064	30,394	29,775	29,185	28,395	27,730	27,062	26,278
	%	11.3	11.1	11.0	10.9	10.7	10.6	10.4	10.3	10.2	10.0
生産年齢人口	人	180,628	177,158	174,800	172,382	169,064	164,881	160,169	155,628	151,688	148,188
	%	62.9	62.3	62.0	61.7	60.9	59.9	58.9	57.8	57.0	56.3
老年人口	人	74,236	75,709	76,225	76,739	78,886	81,073	83,582	85,721	87,389	88,635
	%	25.8	26.6	27.0	27.4	28.4	29.5	30.7	31.9	32.8	33.7

出典：住民基本台帳人口（9月末）

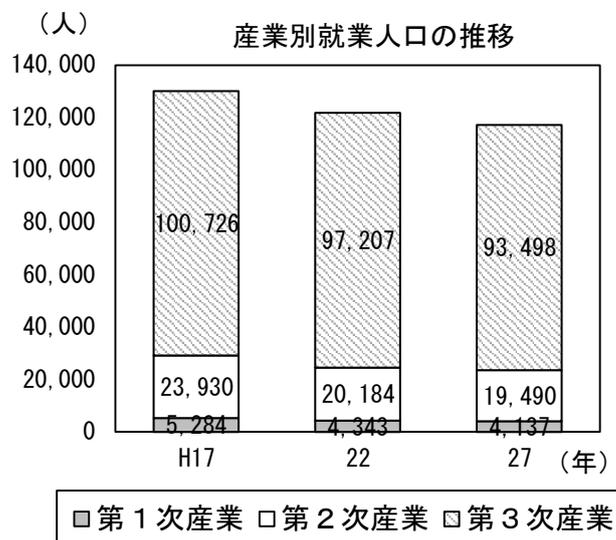


### (3) 就業人口の推移

平成27年(2015年)の国勢調査によると、本市の産業別就業人口は、第1次産業が4,137人(3.5%)、第2次産業が19,490人(16.7%)、第3次産業が93,498人(79.8%)となっています。平成17年(2005年)から平成27年(2015年)までの産業別就業人口比率の変化を見ると、第1次産業および第2次産業は減少、第3次産業は増加しています。

表1-5 産業別就業人口の推移

区 分	単位	平成17年	22年	27年
第1次産業	人	5,284	4,343	4,137
	%	4.1	3.6	3.5
第2次産業	人	23,930	20,184	19,490
	%	18.4	16.6	16.7
第3次産業 (分類不能産業含む)	人	100,726	97,207	93,498
	%	77.5	79.8	79.8
総数	人	129,940	121,734	117,125



### 3 土地利用

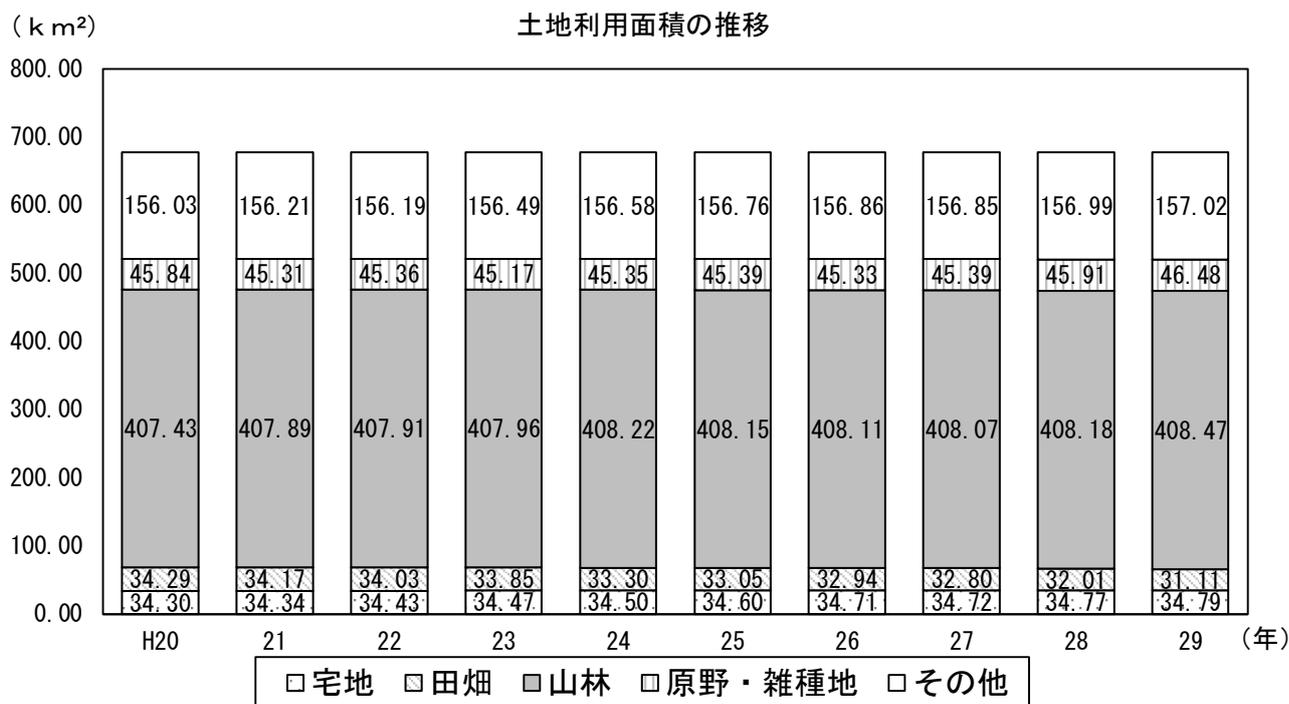
平成29年（2017年）の土地利用は、山林が408.47km<sup>2</sup>（60.3%）と市域に占める割合が最も多く、次いで、原野・雑種地が46.48km<sup>2</sup>（6.9%）、宅地が34.79km<sup>2</sup>（5.1%）、田畑が31.11km<sup>2</sup>（4.6%）となっており、その他（道路・公園等）が157.02km<sup>2</sup>（23.1%）となっています。

表1-3-1 土地利用面積の推移

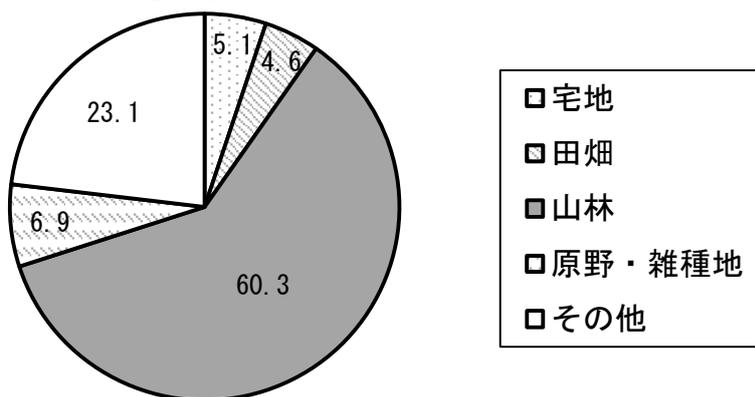
（単位：km<sup>2</sup>）

区分	市域面積	宅地	田畑	山林	原野・雑種地	その他
平成20年	677.89	34.30	34.29	407.43	45.84	156.03
21年	677.92	34.34	34.17	407.89	45.31	156.21
22年	677.92	34.43	34.03	407.91	45.36	156.19
23年	677.94	34.47	33.85	407.96	45.17	156.49
24年	677.95	34.50	33.30	408.22	45.35	156.58
25年	677.95	34.60	33.05	408.15	45.39	156.76
26年	677.95	34.71	32.94	408.11	45.33	156.86
27年	677.83	34.72	32.80	408.07	45.39	156.85
28年	677.86	34.77	32.01	408.18	45.91	156.99
29年	677.87	34.79	31.11	408.47	46.48	157.02

出典：函館市環境白書



平成29年の土地利用面積の割合（%）



#### 4 都市計画

本市の都市計画区域は、旧函館市域において指定されており、平成30年（2018年）3月27日告示による都市計画区域は14,318haで、そのうち市街化区域が4,788ha、市街化調整区域が9,530haとなっています。

用途地域については、住居系用途地域が65.1%（3,118ha）、商業系用途地域が10.7%（516ha）、工業系用途地域が24.1%（1,154ha）となっています。

また、本市における土地区画整理事業は、道内では最も早く、昭和8年（1933年）に函館第一土地区画整理組合が松川町および宮前町の各一部の土地区画整理事業を施行しており、この土地区画整理事業を含めてこれまでに23地区、1,098.5haの区域で土地区画整理事業が行われており、良好な市街地の整備や低廉で良質な宅地の供給をしています。

表 1-4-1 用途地域指定状況

区分		平成21年3月31日告示		平成30年3月27日告示	
		面積 (ha)	構成 (%)	面積 (ha)	構成 (%)
都市計画区域		14,311	-	14,318	-
市街化区域合計		4,763	100.0	4,788	100.0
住居系	第1種低層住居専用地域	978	20.5	943	19.7
	第2種低層住居専用地域	39	0.8	40	0.8
	第1種中高層住居専用地域	147	3.1	144	3.0
	第2種中高層住居専用地域	787	16.5	844	17.6
	第1種住居地域	769	16.1	777	16.3
	第2種住居地域	288	6.1	282	5.9
	準住居地域	95	2.0	88	1.8
	住居系合計	3,103	65.1	3,118	65.1
商業系	近隣商業地域	278	5.8	281	5.9
	商業地域	235	5.0	235	4.9
	商業系合計	513	10.8	516	10.7
工業系	準工業地域	764	16.0	769	16.1
	工業地域	271	5.7	270	5.6
	工業専用地域	112	2.4	115	2.4
	工業系合計	1,147	24.1	1,154	24.1
市街化調整区域		9,548	-	9,530	-

出典：函館市の都市計画

平成27年（2015年）の国勢調査における本市の人口集中地区（DID）人口を見ると、全市域の6.3%の面積の中に全市人口の86.3%が居住しています。

表 1-4-2 人口集中地区（DID）人口、世帯数および面積の推移

区分	人 口			世帯数		面 積	
	人口 (人)	全市に対する割合 (%)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	全市に対する割合 (%)	面積 (km <sup>2</sup> )	全市に対する割合 (%)
平成17年	251,552	85.5	5,983.6	113,669	88.7	42.0	6.2
22年	240,101	86.0	5,654.8	111,816	88.6	42.5	6.3
27年	229,488	86.3	5,415.0	109,834	88.6	42.4	6.3

※人口集中地区（DID）とは、国勢調査の基本単位区等を基礎単位として、原則、人口密度が1km<sup>2</sup>あたり4,000人以上の基本単位区等が市町村の境域内で互いに隣接し、それら隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地区のことをいいます。

出典：国勢調査

## 5 産業

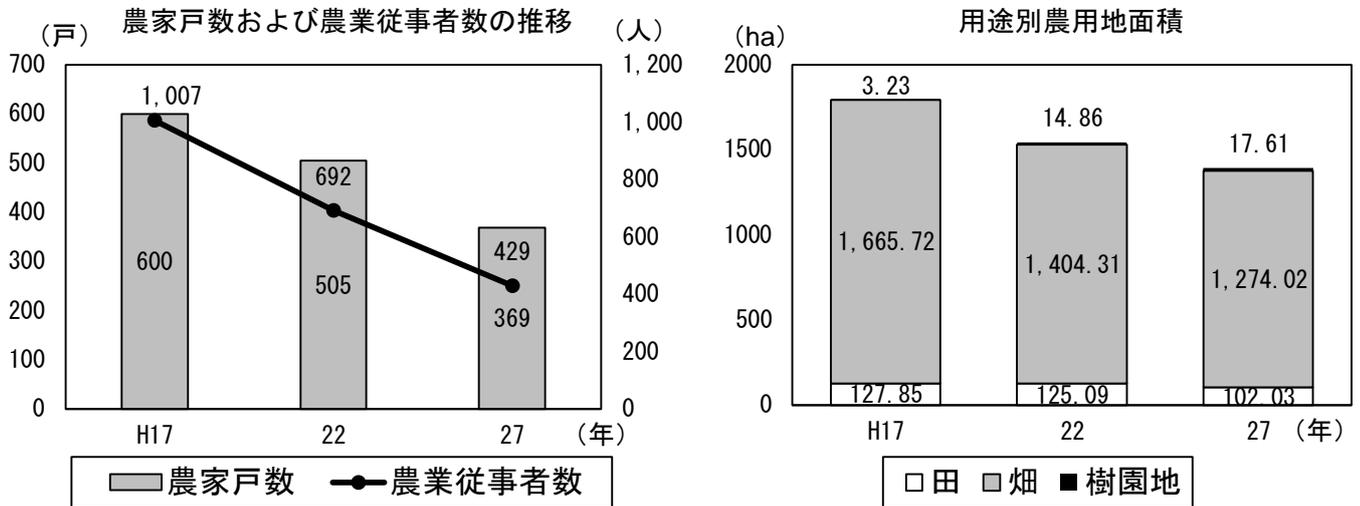
### (1) 農業

本市の農家戸数、農業従事者数および農用地面積は、ともに減少の一途をたどっており、平成27年（2015年）は農家戸数が369戸、農業従事者数が429人、農用地面積が1,393.66haとなっています。農用地面積の内訳を見ると、田が102.03ha（7.3%）、畑が1,274.02ha（91.4%）、樹園地が17.61ha（1.3%）となっています。

表1-5-1 農業の推移

区分	農家戸数（戸）			農業従事者数（人）	農用地面積（ha）			
	総数	専業	兼業		総数	田	畑	樹園地
平成17年	600	160	440	1,007	1,796.80	127.85	1,665.72	3.23
22年	505	133	130	692	1,544.26	125.09	1,404.31	14.86
27年	369	113	99	429	1,393.66	102.03	1,274.02	17.61

出典：函館市農林水産概要



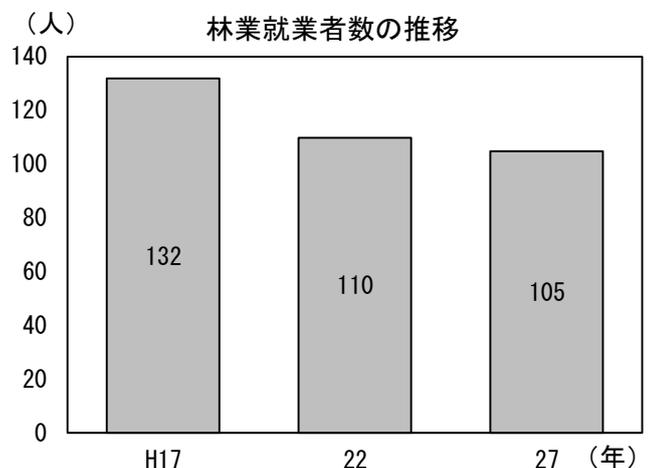
### (2) 林業

本市の林業就業者数は減少しており、平成27年（2015年）の国勢調査では105人となっています。

表1-5-2 林業就業者数の推移

区分	平成17年	22年	27年
林業就業者（人）	132	110	105

出典：国勢調査



### (3) 漁業

本市の基幹産業のひとつである漁業については、経営体数、就業者数ともに減少してきており、平成25年（2013年）は、経営体は1,629経営体、就業者数が2,959人となっています。

また、漁獲高の数量の経年変化を見ると、平成28年（2016年）には、平成20年（2008年）の半分以下となり、大幅に減少しておりますが、漁獲高の金額は、ほぼ横ばいで推移しています。

表1-5-3 漁業経営体数および就業者数の推移

区分	平成15年	20年	25年
漁業経営体数 (経営体)	2,159	1,908	1,629
漁業就業者数 (人)	4,099	3,657	2,959

出典：漁業センサス

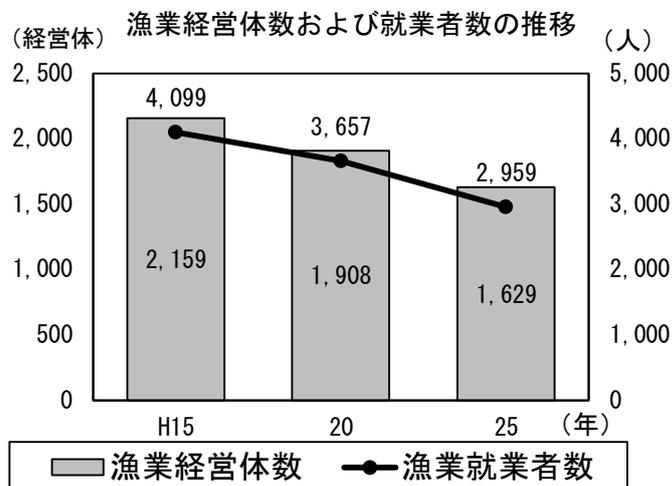
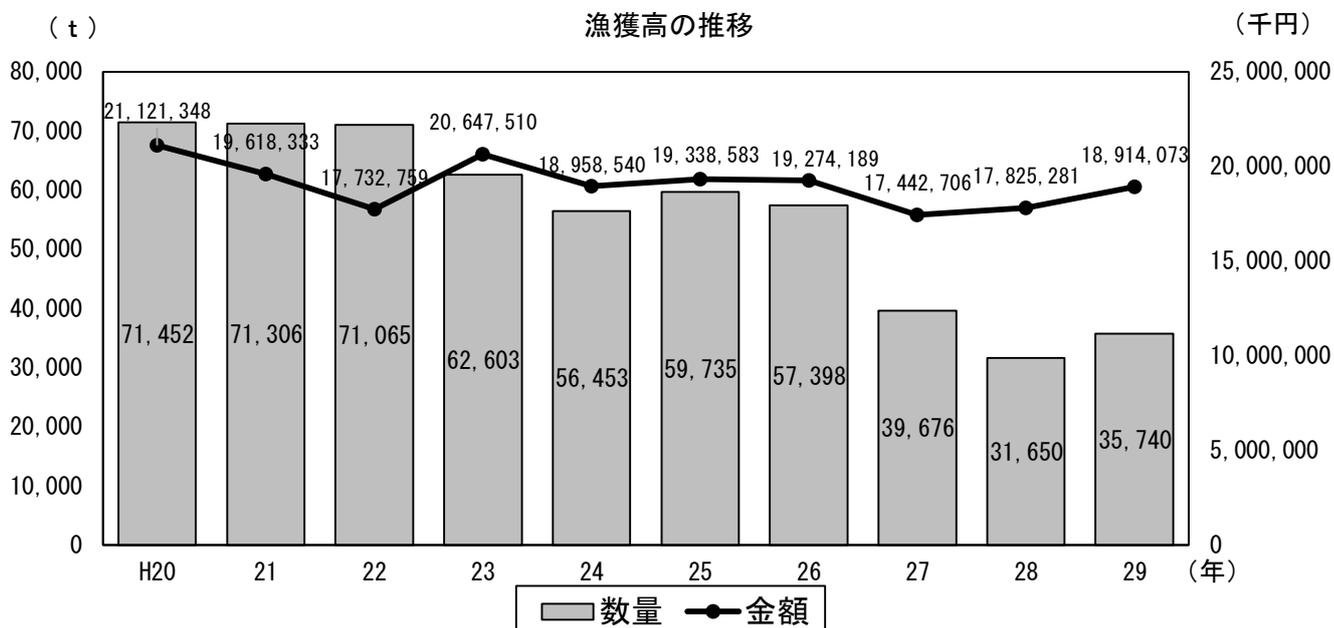


表1-5-4 漁獲高の推移

区分	数量 (t)	金額 (千円)
平成20年	71,452	21,121,348
21年	71,306	19,618,333
22年	71,065	17,732,759
23年	62,603	20,647,510
24年	56,453	18,958,540
25年	59,735	19,338,583
26年	57,398	19,274,189
27年	39,676	17,442,706
28年	31,650	17,825,281
29年	35,740	18,914,073

出典：北海道水産現勢



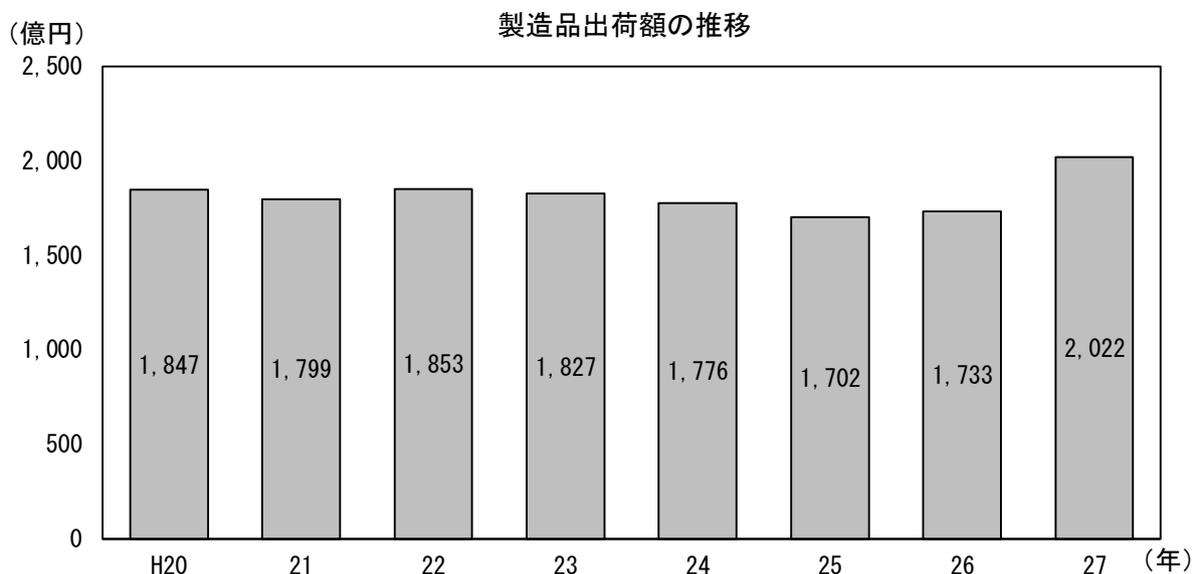
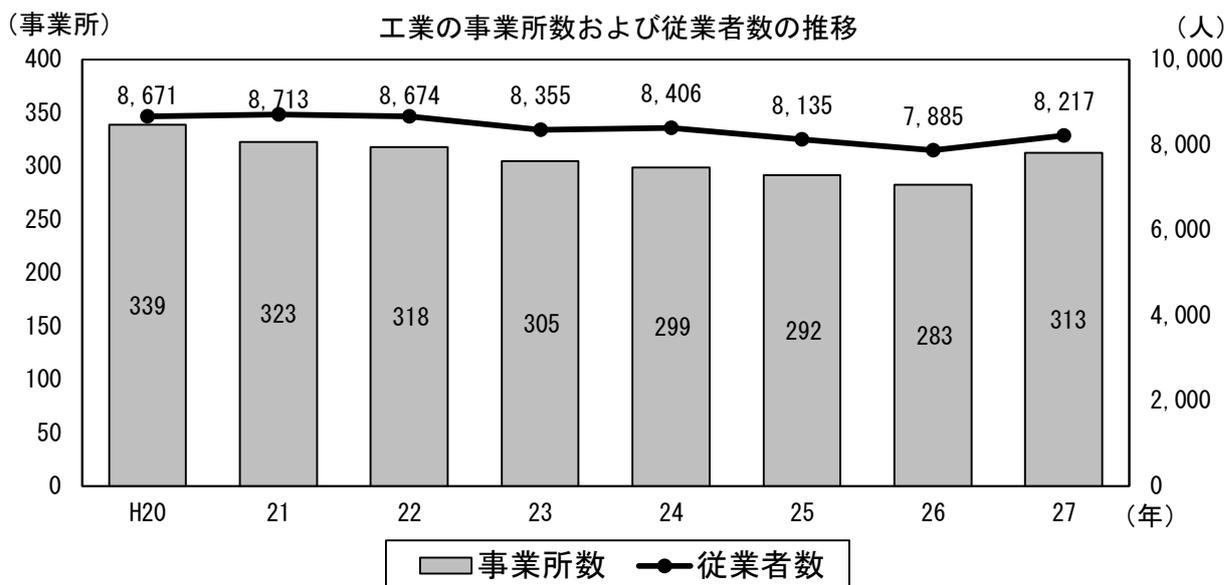
(4) 工業

本市の工業については、事業所数、従業者数ともに減少していましたが、平成27年（2015年）は増加し、製造品出荷額についてはほぼ横ばいで推移していましたが、平成26年（2014年）から増加しました。

表1-5-5 工業の推移（製造業）

区分	事業所数（事業所）	従業者数（人）	製造品出荷額（万円）
平成20年	339	8,671	18,466,050
21年	323	8,713	17,988,698
22年	318	8,674	18,532,871
23年	305	8,355	18,270,484
24年	299	8,406	17,763,181
25年	292	8,135	17,024,824
26年	283	7,885	17,332,988
27年	313	8,217	20,215,084

※従業者4人以上の事業所  
出典：工業統計調査



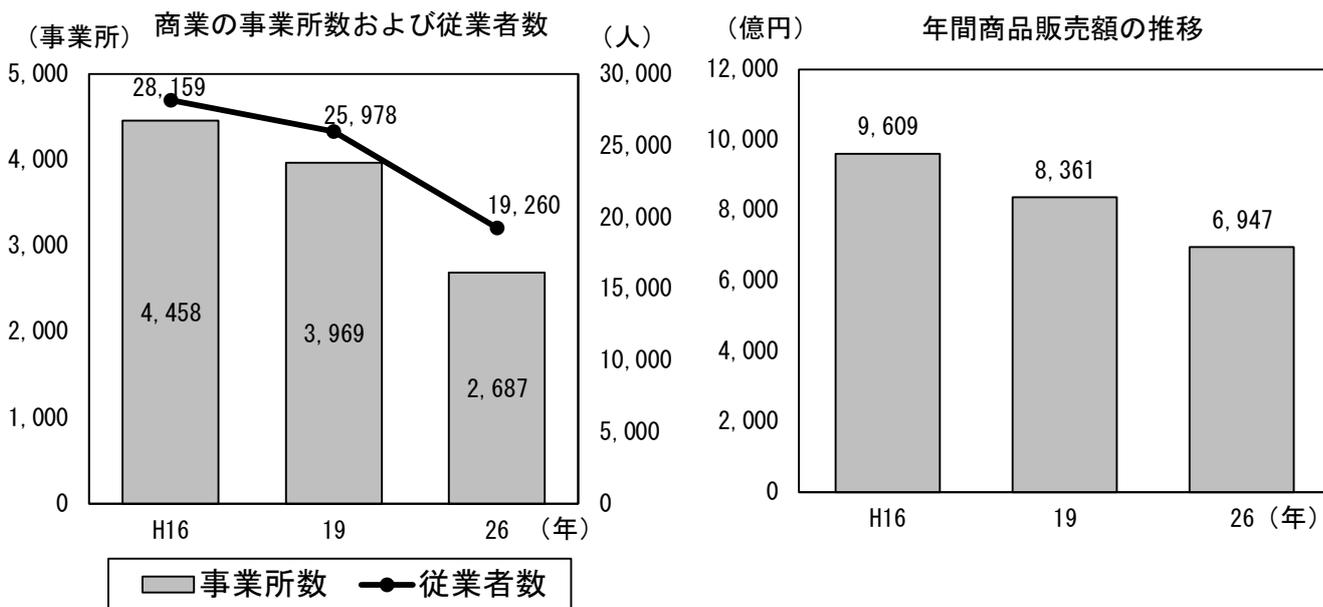
(5) 商業

本市の商業については、事業所数、従業者数、年間商品販売額のいずれも減少しています。

表1-5-6 商業の推移

区分	平成16年	19年	26年
事業所数（事業所）	4,458	3,969	2,687
従業者数（人）	28,159	25,978	19,260
年間商品販売額（万円）	96,091,813	83,613,814	69,473,576

出典：商業統計調査（平成16年には、合併前の旧4町村を含む。）



6 交通

本市は、陸・海・空の交通の要衝として発展してきており、北海道新幹線開業により、交通拠点としての重要性が高まっています。

幹線道路網は、高規格幹線道路である北海道縦貫自動車道（大沼公園 IC から七飯 IC（仮称））および函館・江差自動車道（2021年度に木古内 IC（仮称）まで開通予定）の整備が進められているほか、地域高規格道路の函館新外環状道路（平成27年（2015年）3月に函館 IC から赤川 IC まで開通）は、2020年度における函館空港 IC までの全線開通に向け、工事が進められています。

鉄道は、函館駅を起点とし、函館本線が道内各都市を、道南いさりび鉄道線が五稜郭～木古内間を結んでいるほか、平成28年（2016年）3月に北海道新幹線により新青森～新函館北斗間が結ばれるとともに、2030年度末における新函館北斗～札幌間の開業に向け、工事が進められています。

函館港は、青森とのフェリー航路を有しているほか、道内有数のクルーズ船の寄港地となっており、平成28年度（2016年度）からは、若松地区旅客船ふ頭の整備が進められ、平成30年（2018年）10月から、暫定供用が開始されています。

函館空港は、東京や丘珠等の国内線に加え、台北との国際線が就航しています。

(1) 道路網

本市の主要道路においては、混雑することなく円滑に走行できる混雑度が1.0未満の地点がほぼ7割を占めています。

表1-6-1 主要道路交通量一覧

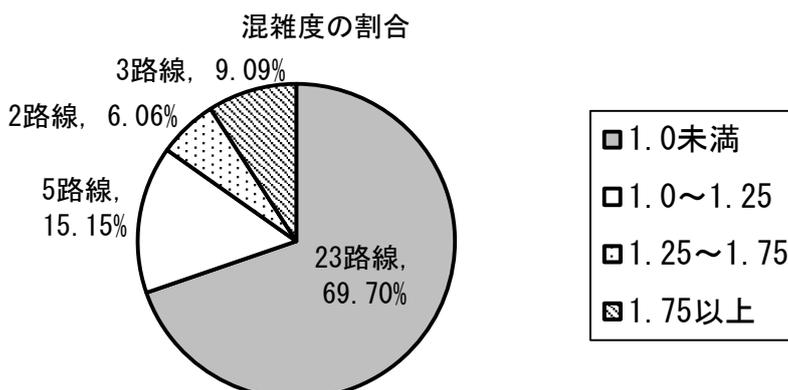
番号	路線名	観測地点	24時間自動車類 交通量(台)	12時間自動車類 交通量(台)	12時間大型車 混入率(%)	H22年度12時間自動 車類交通量(台)	12時間交通量伸び 率(H27/H22)	混雑度
1	国道5号	函館市万代町	24,052	19,715	6.1	20,249	1.0	1.01
2	国道5号	函館市昭和4丁目	22,686	18,595	7.7	11,210	1.7	0.90
3	国道5号	函館市石川町	12,116	9,771	7.4	8,351	1.2	0.62
4	国道5号	函館市桔梗町	28,992	23,764	9.2	22,554	1.1	0.88
5	国道5号	函館市昭和3丁目	5,914	4,769	6.7	4,211	1.1	0.60
6	国道5号	函館市石川町	15,152	12,219	9.7	12,611	1.0	0.54
7	国道5号(函館新道)	函館市桔梗町440	23,340	19,055	12.8	16,520	1.2	0.40
8	国道228号(函館江差自動車道)	函館市西桔梗町784	14,438	11,746	10.1	10,021	1.2	0.98
9	国道278号	函館市若松町	9,061	7,427	15.5	8,872	0.8	0.69
10	国道278号	函館市湯川町3丁目	19,155	15,701	8.2	17,033	0.9	1.04
11	国道278号	函館市高松町190-1	22,344	18,364	9.0	19,343	0.9	1.10
12	国道278号	函館市志海苔町	9,371	7,619	7.4	5,925	1.3	0.92
13	国道278号	函館市尾札部町	2,630	2,156	9.6	1,417	1.5	0.31
14	国道278号	函館市豊崎町	1,499	1,229	13.6	1,844	0.7	0.20
15	国道278号	函館市川汲町	3,523	2,888	7.7	2,072	1.4	0.34
16	国道278号	函館市亀田中野町	14,681	11,905	11.8	—	—	0.26
17	国道279号	函館市若松町	12,565	10,299	6.1	9,803	1.1	1.52
18	道道函館恵山線	函館市蛾眉野町	597	527	14.6	539	1.0	0.09
19	道道函館南茅部線	函館市本町	17,329	13,753	7.0	17,153	0.8	1.76
20	道道函館南茅部線	函館市湯川町	27,936	22,123	9.4	24,420	0.9	1.97
21	道道函館南茅部線	函館市湯川町3丁目	14,326	11,553	9.3	11,372	1.0	0.99
22	道道函館南茅部線	函館市亀尾町	4,773	3,912	13.0	4,270	0.9	0.41
23	道道函館上磯線	函館市湯川町	13,384	10,946	8.2	10,235	1.1	0.73
24	道道函館上磯線	函館市山の手	33,574	26,230	7.5	18,821	1.4	1.05
25	道道函館上磯線	函館市美原	29,060	22,882	8.2	25,819	0.9	0.85
26	道道赤川函館線	函館市美原2丁目	18,731	14,866	7.5	18,866	0.8	0.64
27	道道赤川函館線	函館市富岡町2丁目	27,373	21,781	5.8	21,877	1.0	1.20
28	道道五稜郭公園線	函館市本町	19,674	15,614	8.9	17,654	0.9	1.52
29	道道元村恵山線	函館市古武井	1,955	1,629	9.8	1,491	1.1	0.23
30	道道米原古川線	函館市亀尾町	846	705	18.2	1,384	0.5	0.13
31	道道白尻豊崎線	函館市豊崎	814	684	21.6	521	1.3	3.89
32	道道函館臨空工業団地線	函館市日吉町4丁目	5,621	4,570	18.7	5,989	0.8	0.50
33	道道函館空港インター線	函館市高松町	10,322	8,392	13.2	—	—	0.34

出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

※混雑度とは、ある道路における実際の交通量から求めた昼間12時間乗用車換算交通量の交通容量に対する比

数値的には、次のような交通状況の推定ができるとされています

- ・1.0未満：混雑することなく円滑に走行できる
- ・1.0～1.25：混雑する可能性が1時間から2時間（ピーク時間）ある
- ・1.25～1.75：ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性が高い
- ・1.75以上：慢性的混雑状態



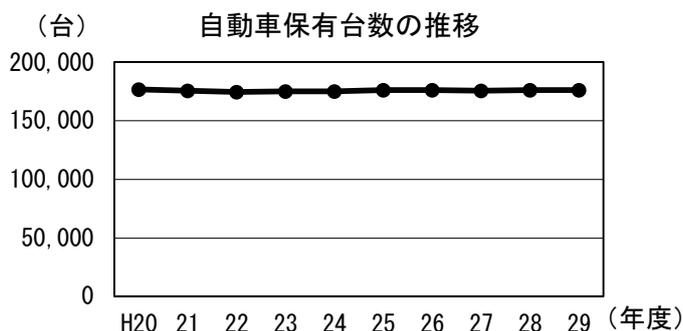
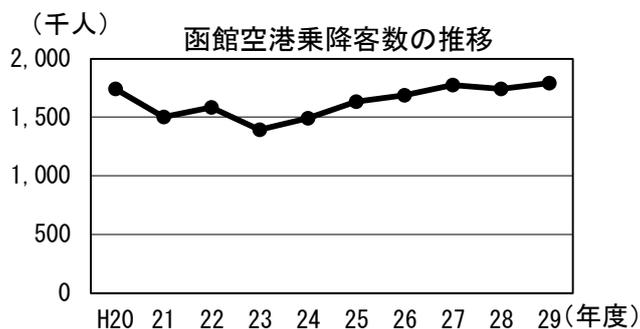
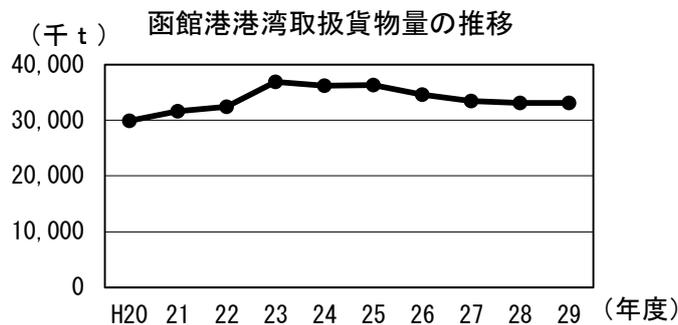
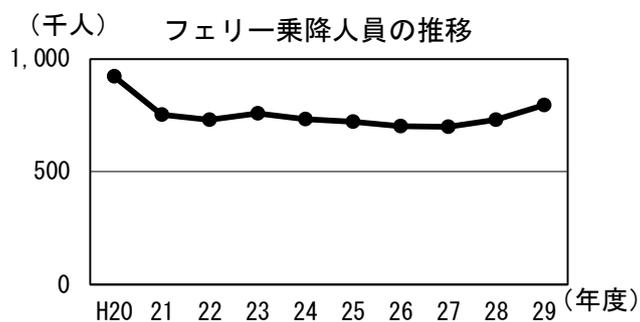
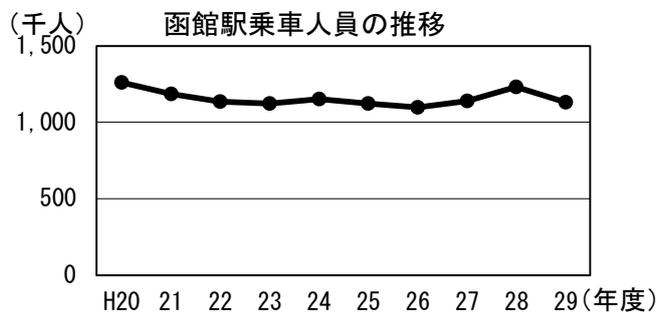
## (2) 交通機関の利用状況等

本市の交通機関の利用状況等の推移を見ると、函館駅乗車人員については、ほぼ横ばいで推移しています。フェリー乗降人員については、平成 27 年度（2015 年度）まで減少傾向にありましたが、平成 28 年度（2016 年度）から増加に転じています。函館港港湾取扱貨物量については、平成 23 年度（2011 年度）まで増加傾向にありましたが、平成 24 年度（2012 年度）からは減少傾向にあります。函館空港乗降客数については、平成 23 年度（2011 年度）に一番落ち込みましたが、平成 24 年度（2012 年度）から増加しています。自動車保有台数については、ほぼ横ばいで推移しています。

表 1-6-2 交通機関の利用状況等の推移

年度\区分	函館駅乗車人員 (千人)	フェリー乗降人員 (千人)	函館港港湾取扱貨物量 (千 t)	函館空港乗降客数 (千人)	自動車保有台数 (台)
平成 20 年	1,260	923	29,835	1,744	176,581
21 年	1,184	752	31,549	1,504	175,892
22 年	1,136	730	32,442	1,582	174,792
23 年	1,123	759	36,801	1,395	175,128
24 年	1,153	732	36,170	1,493	175,424
25 年	1,123	723	36,265	1,630	176,287
26 年	1,096	702	34,546	1,687	176,204
27 年	1,140	698	33,401	1,772	175,779
28 年	1,230	731	33,039	1,744	176,079
29 年	1,130	794	33,035	1,791	176,271

※函館駅乗車人員は年度、自動車保有台数は年度末、その他は暦年の数値  
出典：函館市環境白書



## 7 上下水道

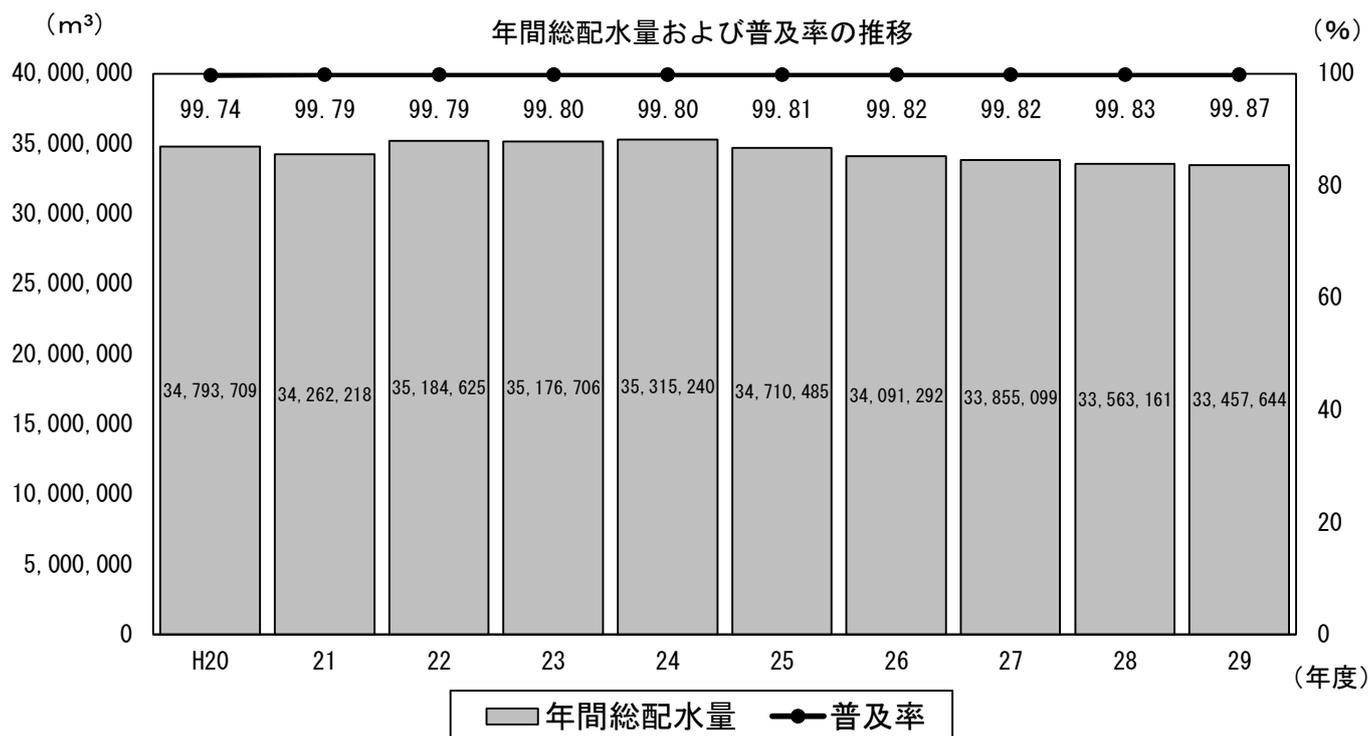
本市の水道給水状況の、過去10年間の推移を見ると、普及率は微増しており、平成29年度（2017年度）の普及率は99.87%となっています。

表1-7-1 水道給水状況

区分 年度	給水区域内世帯・人口		現在給水世帯・人口		普及率 (B/A)	給水量		
	世帯数	人口 (A)	世帯	人口 (B)		年間 総配水量	1日平均	1人1日 平均
	世帯	人	世帯	人	%	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ℓ
平成20年	141,389	284,887	141,025	284,319	99.74	34,793,709	95,325	335
21年	141,879	282,438	141,579	281,946	99.79	34,262,218	93,869	333
22年	142,343	280,017	142,056	279,549	99.79	35,184,625	96,396	345
23年	142,533	277,040	142,245	276,578	99.80	35,176,706	83,798	348
24年	143,158	275,246	142,870	274,801	99.80	35,315,240	96,754	352
25年	143,352	272,518	143,080	272,097	99.81	34,710,485	95,097	349
26年	143,199	269,617	142,936	269,225	99.82	34,091,292	93,401	347
27年	143,202	266,763	142,948	266,395	99.82	33,855,099	92,500	347
28年	142,968	263,698	142,729	263,344	99.83	33,563,161	91,954	349
29年	142,383	260,166	142,155	259,826	99.87	33,457,644	91,665	353

※世帯数、人口は各年度末現在

出典：函館市企業局事業概要



本市の下水道整備状況の、過去10年間の推移を見ると、水洗化率は微増しており、平成29年度(2017年度)の水洗化率は95.3%となっています。

表1-7-2 下水道整備状況の推移

項目	単位	平成20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
全体計画面積	ha	5,531	5,531	5,531	5,531	5,531
全体計画人口	人	254,200	254,200	254,200	254,200	254,200
全体計画管渠延長	km	2,030	2,030	2,030	2,030	2,030
処理区域面積	ha	4,703	4,703	4,711	4,720	4,749
処理区域内人口	人	254,662	252,480	250,798	248,350	247,264
排水区域面積	ha	4,717	4,717	4,725	4,734	4,763
排水区域内人口	人	254,749	252,567	250,885	248,437	247,992
管渠延長	km	1,308	1,309	1,314	1,319	1,330
水洗化区域戸数	戸	131,412	131,452	135,561	135,809	135,838
水洗化済戸数	戸	119,436	120,019	125,367	126,309	126,959
水洗化率	%	90.9	91.3	92.5	93.0	93.5
水洗化人口	人	228,336	227,365	231,303	230,329	230,063
項目	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
全体計画面積	ha	5,531	5,531	5,064	5,064	5,064
全体計画人口	人	254,200	254,200	206,600	206,600	206,600
全体計画管渠延長	km	2,030	2,030	1,797	1,797	1,797
処理区域面積	ha	4,753	4,753	4,760	4,760	4,767
処理区域内人口	人	245,147	242,715	240,551	237,998	235,466
排水区域面積	ha	4,767	4,767	4,774	4,775	4,782
排水区域内人口	人	245,240	242,805	240,641	238,078	235,541
管渠延長	km	1,333	1,336	1,338	1,340	1,349
水洗化区域戸数	戸	135,842	136,163	136,292	136,551	136,899
水洗化済戸数	戸	127,683	128,515	129,111	129,834	130,472
水洗化率	%	94.0	94.4	94.7	95.1	95.3
水洗化人口	人	230,287	229,022	227,417	225,823	223,842

※排水区域：公共下水道により下水（汚水および雨水）を排除することができる地域  
 ※処理区域：排水区域のうち排除された下水を終末処理場により処理することができる地域  
 出典：函館市企業局事業概要

処理区域面積および水洗化率の推移

